パンドラの箱（1929）

DIE BUCHSE DER PANDORA
THE BOX OF PANDORA

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ドイツ
色彩 B&W
時間 90分
初公開日 1930/02
公開情報 劇場公開

【解説】

Ｆ・ベーデキントの同名戯曲の映画化で、ハリウッドからドイツに渡ったＬ・ブルックスに、その役名から“ルル”の愛称を与えた、官能的なメロドラマである。

場末の踊り子であるルルは養父シゴルヒの手練で新聞社社主のシェーン博士の愛人となり、一流の劇場に出るようになり、別れ話を切り出す彼を逆に手玉にとり、結婚を承諾させる。彼には年ごろの息子で秘書のアルヴァがいたが、ルルは親子の仲を引き裂くのを楽しむかのように息子をも誘惑する。彼女の激しい男出入りに更にその決定的事実を知ったシェーンは、ルルを殺して自分も死ぬ－－と迫るが、もみ合った末、彼女に撃たれる。しかし、一旦は捕らわれた彼女は養父やアルヴァの手引きで裁判中に逃亡を図り、愛人の力業師ロドリゴの紹介で港町の賭博船で享楽のうちに過ごすが、ロドリゴが売った彼女を求める持ち主との間で争いが起こり、ルルに養父、アルヴァの三人はロンドンに密入国する。スラムでの極貧生活にルルは夜の女となる決意をし、部屋に男を入れ、その間、男二人は表で過ごす。その優男が、評判の切り裂きジャックだとは知らず……。

踊り子ルルのショウの舞台裏の活気ある演出、賭博船の怪奇ムード、貧民窟の妖しさ、そしてクライマックスの接写を駆使した猟奇場面。どちらかと言えば主題先行型のパプストが、ハワード・ホークスの「港々に女あり」の脇役だったルイーズに惚れ込んで、自分のミューズにと招聘した、その成果が充分に結実した傑作。

【クレジット】

監督	Ｇ・Ｗ・パブスト	G.W. Pabst
原作	フランツ・ベーデキント	
脚本	ラディスラウス・ヴァホダ	Ladislaus Vajda
撮影	ギュンター・クランフ	Gunther Krampf
出演	ルイーズ・ブルックス	Louise Brooks
	カール・ゲーツ	
	フリッツ・コルトナー	Fritz Kortner
	フランツ・レデラー	
	グスタフ・ディーズル	Gustav Diessl

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.